

## 様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

## 産業廃棄物処理計画書

2023 年 6 月 28 日

岐阜県知事 殿

提出者

住 所 岐阜県揖斐郡池田町粕ヶ原字日吉  
1 7 6 6 - 1氏 名 味の素冷凍食品株式会社 中部工場  
工場長 鈴木 徹

電話番号 0 5 8 5 - 4 5 - 6 5 1 1

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	味の素冷凍食品株式会社 中部工場
事業場の所在地	岐阜県揖斐郡池田町粕ヶ原字日吉 1 7 6 6 - 1
計画期間	2 0 2 3 年 4 月 1 日 ～ 2 0 2 4 年 3 月 3 1 日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	食品製造業
② 事業の規模	製造品の出荷額 1 8 . 9 3 8 百万円／年（2 0 2 2 年度）
③ 従業員数	4 0 0 名
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	別添 産業廃棄物処理計画 図4の通り

（日本産業規格 A列4番）



## 産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

別添 産業廃棄物処理計画 4. 産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項の通り

## 産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（ 2022 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類_		
	排 出 量_	t	t
	（これまでに実施した取組） 別添 産業廃棄物 処理計画 6. 産業廃棄物の排出抑制に関する事項の通り		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類_		
	排 出 量_	t	t
	（今後実施する予定の取組）		

## 産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 別添 産業廃棄物 処理計画 7. 産業廃棄物の分別に関する事項の通り
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組）

## (第3面)

## 自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（ 2022 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類_	廃油	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	24.3 t	t
	（これまでに実施した取組） 別添 産業廃棄物 処理計画 8. 産業廃棄物の再生利用に関する事項の通り		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類_	廃油	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	24.3 t	t
	（今後実施する予定の取組） 別添 産業廃棄物 処理計画 8. 産業廃棄物の再生利用に関する事項の通り		

## 自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類_		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
	（これまでに実施した取組）		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類_		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
	（今後実施する予定の取組）		

## (第4面)

## 自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（            年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

## 産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（ 2022 年度）実績】						
	産業廃棄物の種類	動植物性残渣	汚泥	廃プラスチック類	廃油		
	全処理委託量	1,226.4t	350.5t	229.1t	0.2t		
	優良認定処理業者への処理委託量	581.3t	26.2t	72.7t	0.2t		
	再生利用業者への処理委託量	645.1t	324.3t	156.4t			
	認定熱回収業者への処理委託量						
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量						
	(これまでに実施した取組)						

②計画	【目標】						
	産業廃棄物の種類	動植物性残渣	汚泥	廃プラスチック類	廃油		
	全 処 理 委 託 量	1,064t	350.5t	200.0t	0.2t		
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	450.0t	26.5t	70.0t	0.2t		
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	614.1t	324.0t	130.0t			
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量						
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量						
	(今後実施する予定の取組)						
※事務処理欄							

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

# 産業廃棄物処理計画

(2023年度)

味の素冷凍食品株式会社 中部工場

### 1. 会社の概要

(1) 会社名 味の素冷凍食品株式会社

(2) 資本金 9,537百万円

(3) 従業員 2,900名

### 2. 当該事業所において現に行っている事業の概要

(1) 従業員 400名

(2) 製造品の出荷額 18,938百万円／年 (2022年度)

(3) 製造概要

中部工場では、スーパー等で売られている家庭用調理冷凍食品の  
ギョーザ・エビシューマイ・エビ寄せフライ・中華丼の具を製造しています。

(4) 生産量 20,870t／年 (2022年度)

(5) 製造等フローシート 図1・2参照

(6) 工場配置図 図3参照

(7) 事業所展望

生産構造転換の取り組みを行い、中部工場は消費地型少品種大量生産工場として位置づけ、  
家庭用の販売主力4商品に特化した高生産性工場で展開中。

(8) 廃棄物処理フロー図 図4参照

(9) 連絡先 担当者 : 味の素冷凍食品株式会社 中部工場  
総務グループ 相馬 隆  
電話番号 0585-45-6511

### 3. 計画期間

2022年4月1日から2023年3月31日まで



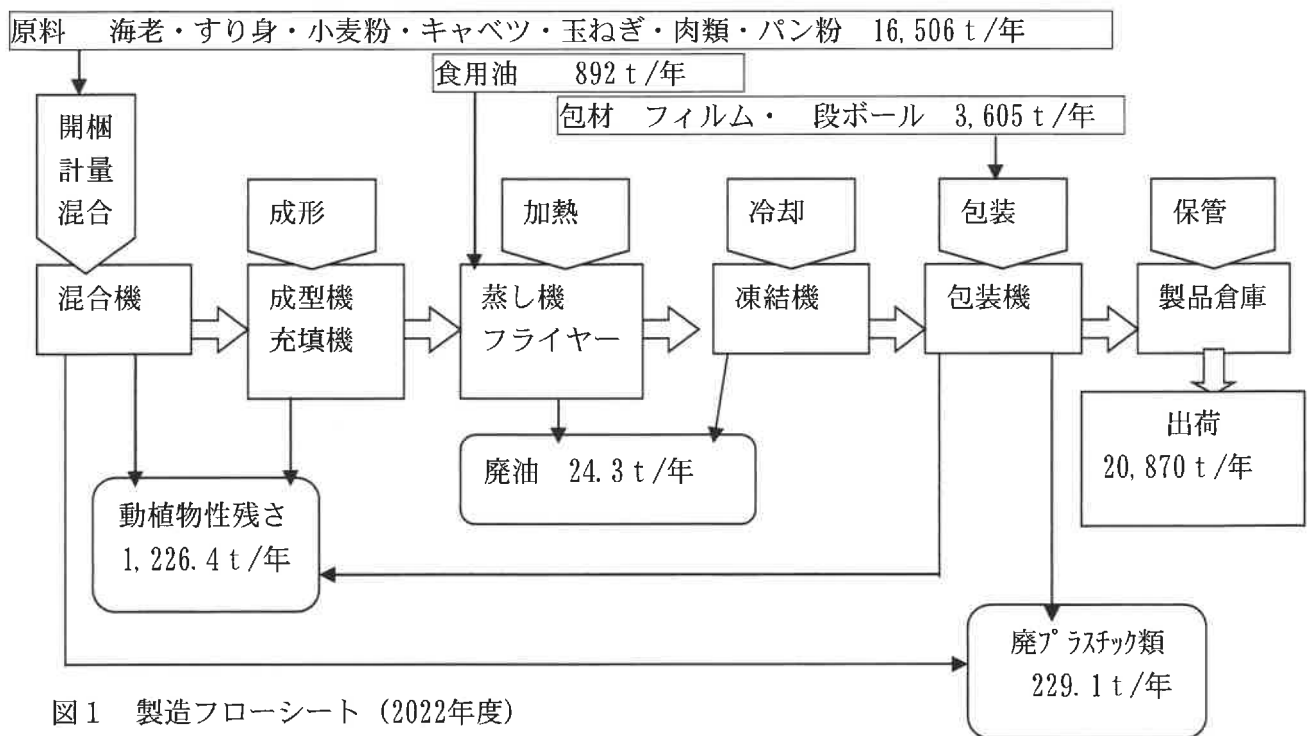


図1 製造フローシート（2022年度）

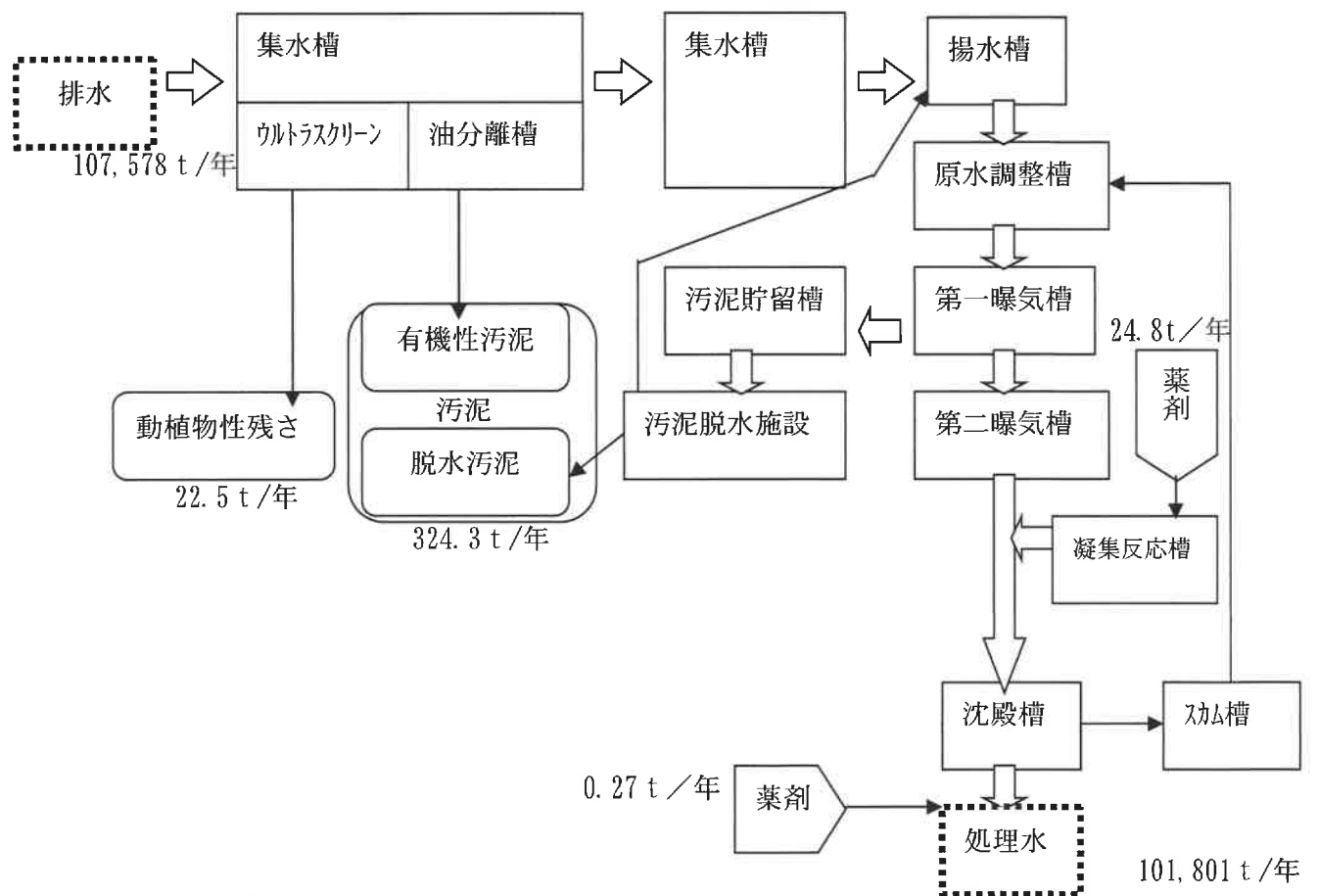


図2 排水処理フローシート（2022年度）

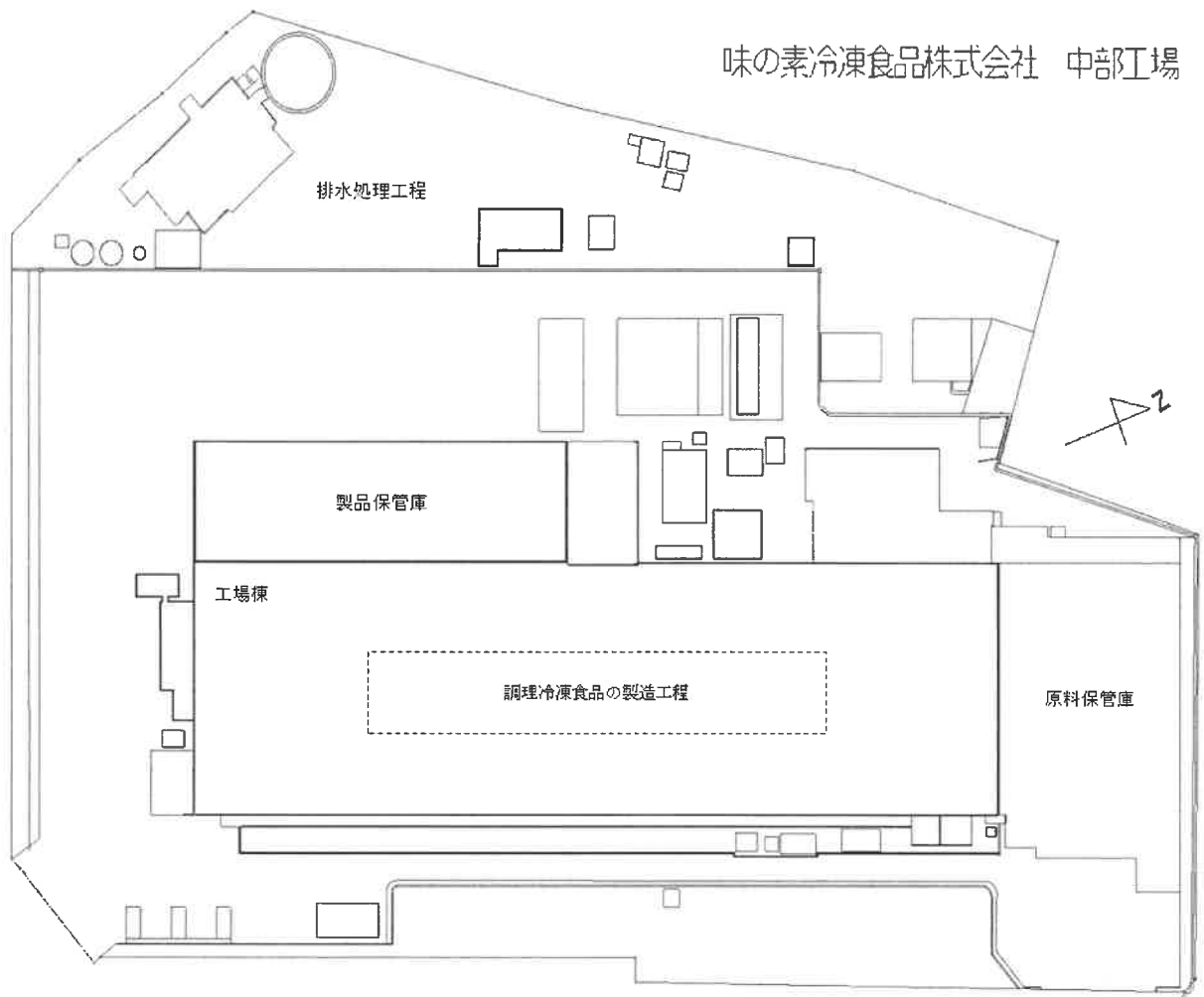


図3 工場配置図

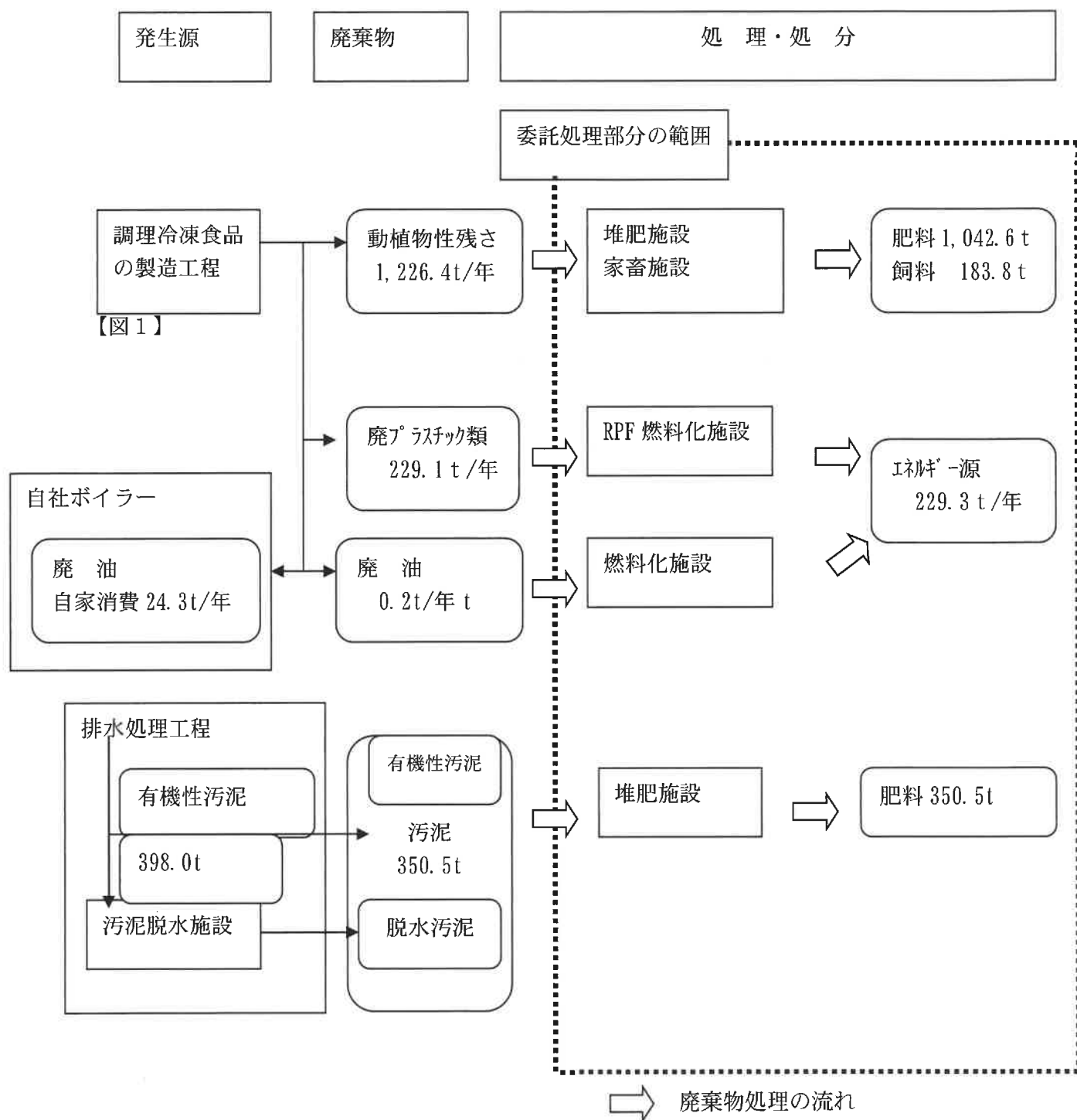


図 4 廃棄物処理フロー図（現状）

#### 4. 産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

##### (1) 責任者及び管理組織図

環境管理者		中部工場 工場長
廃棄物管理責任者		総務グループ長
廃棄物担当		総務グループ 担当者
役割	環境会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月例実施</li> <li>・委員長：工場長、</li> <li>・委員：工場管理職及び施設保全担当・廃棄物担当</li> <li>・廃棄物処理に関する検討 廃棄物の発生抑制、リサイクル率・資源化率の向上、計画的な廃棄物の管理運営を行なう上で必要な事項を検討する。</li> </ul>
	環境管理者	<ul style="list-style-type: none"> <li>○環境保全業務の統括</li> <li>○廃棄物処理方針の策定</li> <li>○廃棄物処理に関する各種事項の決定、承認</li> </ul>
	廃棄物管理責任者・ 廃棄物担当	<ul style="list-style-type: none"> <li>○廃棄物処理計画の作成</li> <li>○廃棄物管理状況の把握と改善策</li> <li>○産業廃棄物処理施設の運転・維持管理状況の把握</li> <li>○委託契約の締結</li> <li>○産業廃棄物管理票の交付・管理</li> <li>○処理委託業者の調査、選定及び管理</li> <li>○産業廃棄物処理施設の運転・維持管理状況の把握</li> <li>○監督官庁への各種報告</li> <li>○社員及び関連会社に対する教育・啓発</li> <li>○その他関係する事項</li> </ul>
<p>廃棄物管理組織</p> <pre> graph TD     FM[工場長] --- QMG[品質管理 G]     FM --- EM[環境管理者] --- EMG[環境会議]     FM --- MG[製造部]     FM --- SG[総務 G] --- WMR[廃棄物管理責任者]     MG --- M1G[製造 G]     MG --- M2G[開発導入 G]     MG --- M3G[製造管理 G]     MG --- M4G[製造技術 G] </pre>		

## (2) 廃棄物管理運営

マネジメントシステム（品質/環境/防災安全）に則り、管理・教育・情報公開等を実施する。

### 5. 廃棄物の処理に関する事項（排出の抑制、分別、再生利用に関する事項を含む）

#### (1) 基本的事項

- ① 産業廃棄物の適正処理を確保するため、関連する法令、その他の規則を遵守する。
- ② 発生した産業廃棄物は自ら処理することを原則とし、処理業者に委託する場合であっても、収集運搬から処分に至るまで確認し的確に管理する。
- ③ 産業廃棄物の発生抑制、資源化率の向上等について、数値目標及びその達成時期を定め実施する。  
また、これら処理に関する目標及び計画は、定期的に必要な見直しを行なう。
- ④ 廃棄物の処理について次に掲げる事項を実施する。  
発生抑制      工程トラブルの低減、製造工程の見直し  
再生利用      飼料化、資源化、有価物化の推進  
その他          定期的に業者視察と処理状況を確認及び適正な委託契約を締結する。

#### (2) 廃棄物処理の現状

- ① 当工場から発生する産業廃棄物は、調理冷凍食品製造工程からの動植物性残さ、廃プラスチック類、廃油、排水処理工程からの汚泥である。動植物性残さが1,226 t／年で最も多く、全体の75％を占めている。有機性汚泥は脱水施設にて含水率85～87％の汚泥として排出している。
- ② これらの産業廃棄物は、堆肥や燃料等の再生利用する業者を選定して委託処理を行なっている。又、廃棄物の発生抑制の取り組みとして、排水処理方法の変更による汚泥の削減や設備の安定化による不良品の削減を行なっている。

#### (3) 目標の設定

- ・産業廃棄物 2022年度の目標原単位継続
- ・廃棄物の資源化率 100％の維持

##### その他の取り組み

- ・処理業者と委託契約を結ぶに当たって、事前の現地確認と委託後の定期的な業者の視察（処理状況、管理状況、許可証の日付等の確認）を行なう。
- ・マニフェスト伝票の管理（発行、業者返送期限の厳守）を徹底する。

#### (4) 廃棄物の処理に係る情報の収集・管理

インターネットのエコブレインにて法改正等の情報入手し、事務局より各部署へ情報を発信し情報提供を行なう。

#### (5) 中長期的取り組み課題

- ① 21年度～23年度味の素冷凍食品株式会社中期計画の環境指針目的達成に向けて、単年度の目標の達成と継続的改善の実現。
- ② 自主管理基準の設定と環境管理レベル向上。
- ③ 環境への取り組み 環境に配慮した製品や製造方法の模索。

6. 産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

【具体的な取り組み】

廃棄物の種類	発生量実績 (t/2022年)	発生量計画 (t/2023年)	排出抑制量 (t/2023年)	
動植物性残さ	1, 226. 4	1, 064. 1	-162. 3	製造設備の安定化による不良品の低減
廃プラスチック類	229. 1	200. 0	-29. 1	包装機の安定化によるトラブルの低減
廃油	24. 5	24. 5	0. 0	廃油燃焼ボイラーによる自家消費継続 機械油処理発生分の計画処理
汚泥	350. 5	350. 5	0. 0	汚泥減容剤による汚泥量の削減

7. 産業廃棄物の分別に関する事項

【具体的な取り組み】

工程毎に発生したものは、工程毎に分別・分類し一時保管する。

定期に決められた廃棄物保管場所へ移動して保管する。

8. 産業廃棄物の再生利用に関する事項

【具体的な取り組み】 100%再生利用の継続維持

廃棄物の種類	再生利用量 実績 (t/2022年)	再生利用量 計画 (t/2023年)	再生利用量の 増減 (t/2023年)	取り組み
動植物性残さ	1, 226. 4	1, 064. 1	-162. 3	飼料・堆肥化
廃プラスチック類	229. 1	200	-29. 1	エネルギー源
廃油	24. 5	24. 5	0. 0	自家消費（ボイラー燃料） 再生燃料化
汚泥	324. 3	324. 3	0. 0	堆肥化

以 上